

● 京都府史蹟名勝天然紀念物調査報告

第十一冊

京都府史蹟勝地保存委員會の昭和三・四兩年度に亘る調査の成果を收め西田直二郎博士、佐藤虎雄學士の執筆にかゝる。内容は京都市に於いて知足院と保元亂遺蹟並に崇徳天皇御廟所郡部に於いて笠置山の史蹟及び名勝以下十二箇所に及ぶ。通説、前諸冊に比して稍々顯著なるものに乏しい感がないが、就中保元亂後崇敬の篤かつた崇徳院の靈社及び御影堂の、春日の末にあつたものは既に早く亡び、今纔に残るもの祇園歌舞練場の東にあつて日夜弦歌の聲に覆はれ何人も顧るものなきに至らうとしてゐるのは、調査の當時新聞紙にも報導されて識者の注意を引いた所、また相樂郡法華寺野に於て發掘された牆壁に類する遺跡が伴出する瓦によつて奈良朝おそくも平安朝初期のものに斷ぜられ、その構造その位置等によつて或は斐原離宮跡若くは國分尼寺跡と推定されてゐるのは猶研究の餘地を残すこはいへ、十分注意さるべきものであらう。(四六倍版本文一一二頁、圖版四二葉)

〔以上柴田〕

● 英米佛蘭聯合艦隊幕末海戰記

安藤徳器
大井 征共譯

佛國海軍士官 Alfred Russin の著 "The Campagne sur les côtes du Japon" の全譯である。全篇九章に分たれ其中五章が下關砲撃從軍記、他は彼等の眼に興味深く映じたらしい日本の社會組織や、當時の國情殊に幕府の對外方針と尊王攘夷の運動の關係に就いて觀察が要領よく記されてゐる。明治維新史の究明が悉ゆる方面より要求されてゐる時本書も亦其目的のために有效なる一使命を果し得るであらう。譯文流暢單なる讀物としても興味深く通讀される。尙附録參考資料として英國公使アルコックの報告狀等二十點を載せて本文記事を補足し又其誤謬を訂正してゐる。(四六判 四一四頁、定價一、五〇 平凡社發行)〔藤〕

● 近代日支鮮關係の研究

田保橋 潔著

本書も亦前書と略同時に第三輯として發行され著者が